

施策を検討してはどうか。

**A** 前向きに検討したい。またスマートフォンが使えない年配の方向けについては、紙クーポンの発行を行うことでデジタルとの両立を図っていく。  
(秘書公室長)

### 奨学金制度について

**Q** 当町で実施している控除型奨学金制度の現在の利用状況について。

**A** これまでの利用者数は累計28人。実際にほとんどの方が境町に在住いただき、奨学金返済は免除となっている。  
(教育次長)

**Q** 奨学金制度の対象者を増やすべく制度改定を視野に入れてはどうか。

**A** 「進学当時は境町に戻るか未定だったが、実際には就学後に境町で生活している」という方(申請をしなかったが奨学金の対象要件を満たしている)に対しても、なんらかの補助ができないか検討したい。  
(町長)



議席4番

鈴木 英明 議員



### 学校教育について

**Q** GIGAスクール構想によって児童生徒向け学習用端末を一人一台導入して1年が経過したが、ICT機器の活用状況と効果について伺う。

**A** ICT機器をほぼ毎日活用し、学習のさまざまな場面に応じて学びのツールとして活用がはかられている。臨時休校時は端末を利用したオンラインでリモート学習を行い、学びの場を止めることなく適切に対応することができた。効果については、デジタルの強みを生かした視覚的な情報は学習意欲を高めたり、理解を促したりするなど、学習の定着につながっている様子が授業観察からも感じ取れる。  
(教育次長)

**Q** 児童生徒が自ら判断してデジタル社会を安全に行動できる能力を育成するデジタルシティズンシップ教育が目玉されているが、当町の考えを伺う。

**A** 当町では、デジタルシティズンシップ教育を他の市町村より先駆けて令和3年12月から実施しており、県内44市町村のうち当町と八千代町のみ実施している。今後とも学習指導要領の改訂を踏まえデジタルシティズンシップ教育を推進し、児童生徒の学習活動の向上に努めていく。  
(教育次長)

議席3番

枝 史子 議員



### 小学生の登下校時の荷物 の負担軽減について

**Q** 小学生の登下校時の荷物が重すぎる、ということが問題になっている。アメリカ小児科学会では、子どもの体

への過剰な負担を避けるために、バックパック(背中に背負う荷物)の重さは体重の15%を超えてはならないという指針を出しているが、独自の調査をしたところ、境町の小学生はその基準を超えた「重すぎる荷物」を持って登下校し、肩や腰の痛みを訴えている子もいることがわかった。

文部科学省でも、この事態を重く見て、負担軽減の為に教科書等を学校に置いていくことを認める通達を出しているが、私自身が実施した独自の調査結果を見る限り、境町ではまだ改善されていないのではないか。これについて、町の取り組みを問う。

**A** 小学生が毎日重い荷物を持つてくることは、自分の子どもを見ているので承知している。特に、クロームブックについては、通常登校できている現状において、毎日の持ち帰りは不要ではないかと考えている。ただ、学校によっては、宿題に使うという理由で毎日持ち帰っているようなので、本当に使っているのか等を保護者に確認して対応した方が良いと指示している。

また、水筒の重さも負担になることから、校内各階にウォーターサーバーを設置するなど、対応をすすめたい。